

# 同窓会だより

発行

千葉県立船橋高等学校同窓会

〒273-0002 千葉県船橋市東船橋6-1-1

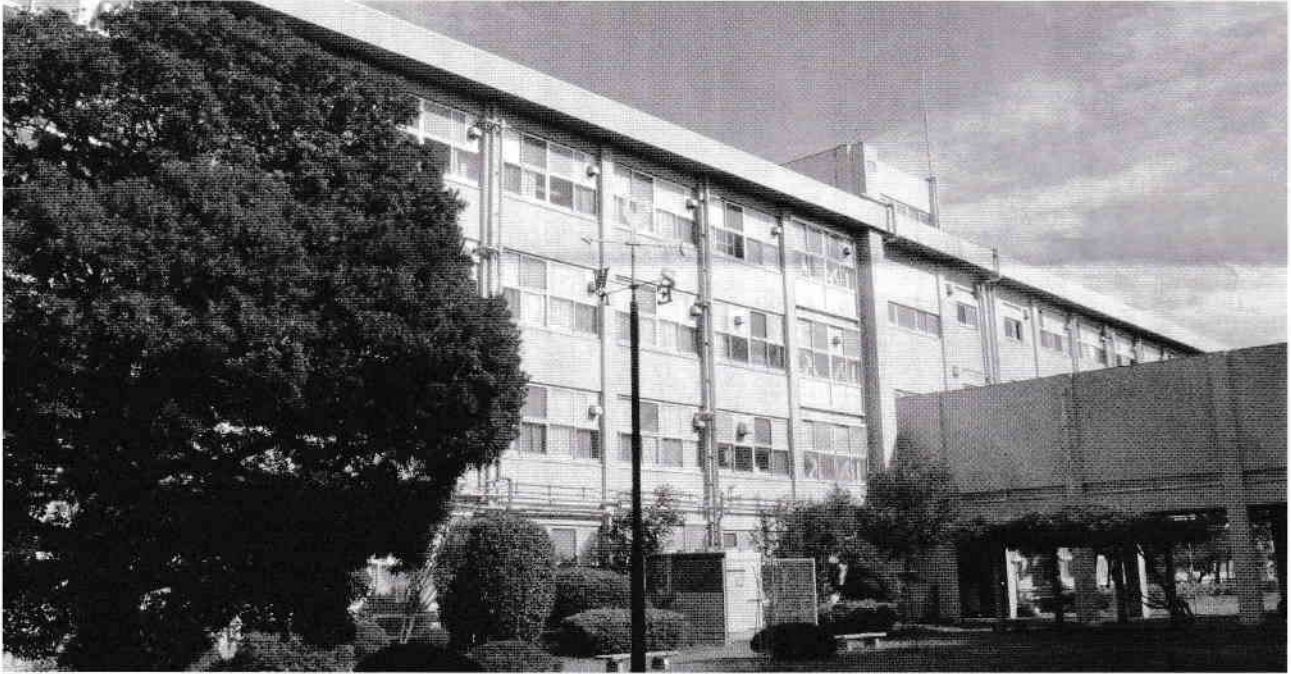
ホームページ <http://homepage2.nifty.com/funaobog/>

E-mail funafuna55@nifty.com

印刷 (株) サラト

姫路市北条宮の町172番地  
TEL 079-284-1380

題字／小原天籟先生



## 母校はいま

創立九十周年を記念して同窓会から母校に作詞者サトウハチロー先生直筆原稿による校歌碑を贈る企画のために、御子息のサトウハチロー記念館長、佐藤四郎さんに許諾をいただく機会がありました。「ハチローは全国で二百八十ほどの校歌を作詞したが、今日歌われているのは十数曲、特に都市部にある高校では記憶をしている限り船橋ともう一校くらいなのではないか。また、「船橋は父子ともにとっても思い出のある街。」とのこと快諾していただきました。私の一つ下の学年の修学旅行の時にサトウハチロー先生逝去の報を受け、東京駅で旅行団一同が黙祷をしてから出発したとHRで知らされてから三十七年、校歌は変わらず、美しく、高らかに歌い継がれています。

変わらないものとしてもう一つ、昭和三十九年落成の本館をはじめとする現校舎があります。英・数・国の研究室も変わらず本館の西端にありますが、研究室を出入りする時、次の授業に備えて廊下で更衣する生徒にこの三十七年の大きな変化を感じます。

国語研究室の隣はすぐに一年生の教室で、生徒が体育の授業の前後に廊下で更衣したりロッカーの教科書を出し入れする奥から教員は出入りすることになります。生徒は次の準備に追われ、教員が通れないことに気づくと「すみません」と言いつて道を空けます。

その当時の記憶をたどっていても、自分が東側の理数科棟に近い教室であったことや、女子の数が今よりも少なかったことなどはあるものの、廊下で着替えている生徒や教員が研究室の出入りに難儀するという風景はありませんでした。当時、文化祭でのパネルの掲示を巡り、学校と生徒が対立する場面もあったにもかかわらず、各科の研究室は学問・教養のエッセンスの詰まった厳粛かつミステリアスな空間であり、その研究室を出入りする先生方に対し、ほとんどの生徒が畏

敬の念を持つていたのではなかったでしょうか。ここを源として発せられる高次で大量の学習内容、また先輩の築いた伝統を受け継ぎ、さらに進展させることが絶対的使命であった部活動・委員会・生徒会行事、そして進路実現の点では時間と体力のいる課外活動参加に必ずしも協力的ではなかった保護者の期待。それら「上からの力」をいかに受けとめ、あるいははね除け、成熟していくか、というのが、「文武両道」を掲げる船橋生の大きな課題だったように思います。

この「上からの力」に替わって、今日、船橋生が直面しているのは別の課題です。今は、保護者も教員も「文武両道」のよき理解者です。保護者会のある部活動も増え、合宿時の協力や大会応援に駆けつけてくれる保護者の方も多く、教員の側も、専門教科と進路実現、部活指導について、身を以て「両道」を示しています。このような理解ある環境のもとで、目標達成のために選べば簡単に手に入るようなプログラムへの「吸引力」がこちらにもこちらにも働いています。過去に比べても能力と環境のゆえに目標達成度がとても高くなっている船橋生が、それゆえに自らと他者を知ることが困難になって、成熟しにくくなっている状況をいかに克服するか、というのが今日の課題だと考えます。

三十七年前に比べると、自覚がないと課題を課題として意識できないだけに、逆に難しい状況に置かれていると言えます。また、船橋生はその能力や意欲、また理解し応援する周囲の人々という恵まれた条件に対して、学校の環境そのものは先に記したように時間的・空間的に窮屈で制約が多いことになっている場面でも思い知らされています。これら逆境的認識が、現在の課題を自覚し、「大空映して寄せ来る波」のようなエネルギーを生み出し、成熟していくための大きなきっかけの一つとなることと考えています。

寄稿 山田敏明  
奇橋 山田敏明  
（県立船橋高校教諭 平成21年兼任 昭和49年卒）

### 創立90周年記念事業に寄せて



同窓会会長  
金子安雄  
(昭和34年卒)

我が母校 千葉県立船橋高校創立90周年の節目の年に、ここに学んだ同窓生として、改めて風雪に刻まれたその歴史を思い、感慨を新たにしております。

また、何より、ここに、同窓生諸兄とともに、母校を思い、節目の年を迎えることができましたことは、慶賀の至りでございます。

さて、ご案内のとおり、昨年の同窓会名簿の発刊から、90周年記念事業が開始しておりますが、既に、同窓会、学校、全日制PTA、定時制PTA、定時制教育振興会後援会からなる千葉県立船橋高等学校創立90周年記念事業実行委員会が組織され、講演会をメインにした創立90周年記念式典が平成23年5月12日の開催と決まりました。

今後は、式典に向けて準備を進め、同窓会としてもサトウハチロー氏直筆の原稿を基にした校歌歌碑の建立や学校事業への補助等を具体的に進めていくこととなります。会員の皆さんには、既に、学年幹事の方々を通してお願いしておりますが、記念事業と記念式典の成功に向け、更なるご協力を、重ねてお願い、申し上げる次第です。

10年ごとの節目の年に同窓会が記念事業を行うことは、改めて、会員相互の絆を強固なものとし、同窓生諸兄の母校への思い、温かく厳しい恩師のご指導を得て、母校で学んだ3年間に自然と培われた船高気質を一つにするということでありましょし、同時に、新たな10年の飛翔を期す、大きな、大切な

第一歩となるものでございます。ともあれ、既に、母校は、更なる飛躍へ、歩みを進めておりますので、我々同窓生も力を合わせ、母校の後輩たちへ思いを届けて参りましょし。

改めて、皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

### 校長挨拶



校長  
森村隆二

同窓の皆様には、日ごろより本校の教育に対し格別のご理解とご支援を賜り深く感謝申し上げます。

着任以来、保護者・同窓会の皆様には折に触れて声をかけていただき、船高に対する熱い思いに感じ入るとともに改めて身の引き締まる思いがいたします。船高は、今年度創立90周年を迎え、平成23年5月には、習志野文化ホールにて記念式典を挙行いたします。節目の年にあたり、温故知新の姿勢を以て先輩諸氏の業績に学び、そこから新しい流れを生み出すべく、時代に合った改革に取り組む所存であります。

今後の検討課題としては教育課程の改訂・単位制の導入・習熟度別学習の改善・土曜日の活用等があり、実現に向けて検討中です。また、トイレの改修などの環境整備を早急に行いたいと考えております。

どうか船高が意欲的・積極的に教育活動に推進できますよう、ご支援とご協力をお願い申し上げます。

### 着任して思うこと



副会長  
秋元孝敏

四月に千城台高校から本校定時制課程の副校長として着任いたしました。本校は、教頭・副校長として三校目の学校となります。定時制課程の勤務は教員生活で初めての経験ですが、誠意を持って一杯取り組みますのでよろしくお願いいたします。

本校定時制は、県内でも規模が大きく伝統があり、文武両道を心掛けて十代から六十代の多様な生徒達が、日々の学習や部活動に取り組んでおります。本校に着任して感じたことは、生徒と教職員が実際にアットホームな雰囲気であること、部活動が活発で活気があることです。六月の定通体育大会は、全校応援で臨み、お陰で五つの部が全国大会出場を果たしました。教職員は大変面倒見がよく、「頑張るあなたを応援します」を合い言葉に生徒一人一人のチャレンジを応援しています。

教育振興会や同窓会の皆様の力強いご支援のもと、教職員一丸となり生徒の未来につながる「夢と勇気と自信、そして学ぶ力を育成する学校」を目指してまいりますので、今後とも皆様のご支援ご協力をお願いいたします。

### 着任のごあいさつ



教頭  
渡邊敏樹

本年4月から、この伝統ある県立船橋高等学校の一員となり、身の引き締まる思いでおります。また、創立90周年という節目に着任することになったことも、大変うれしい巡り合わせであると感じているところです。

部活動等で、生徒達は見事な活躍をしており、学業とあわせ、文武両道を体現している姿に、感心しております。また、生徒達の活躍もあり、本校に対する、保護者の方々や外部の方からの関心の高さに、改めて驚かされています。

6月の保護者対象の授業参観では、500名を超える保護者の参加を見ました。たちな祭には、2日間で、約5,000人の見学者がありました。7・8月末に実施した学校説明会に、2日で約2,500人の中学3年生関係者が説明や部活動の見学のために来校しています。

このように、本校は否が応でも注目される立場にあるということを、生徒職員共々自覚しつつ、さらに高みを目指していければと思っております。

おわりに、来年度の創立90周年記念事業が成功裏に行われることを祈念し、私も教頭として微力ながら力を尽くしていきたいと思っております。同窓会の皆様には、引き続きますますのご支援をお願いいたします。

平成二十三年

# 『春の同窓会』

## ご案内

実行委員長 小川佳延 (昭和44年卒)

昭和44年卒業の同期生の皆さん、お久しぶりです。同窓会の実行委員長を仰せつかりましたH組小川佳延です。といっても、私は、在学中は自立った活動も学業成績も残しておりませんので、知らない方が多いのではないかと思います。そんな私が、ひょんなことから実行委員長を引き受けることになったのも何かのご縁というか、乗せられ易い私の性格を見抜いた誰かの差し金と思っております。

さて、県船の春の同窓会については、毎年、同窓会事務局から通知をいただき、気にはしておりますが、平成22年の2月に行われた同窓会に今回実行委員を受けるにあつての予備知識を得るため、参加したのが初めてのことでした。会場には250人を超える先輩・同期、後輩が集い、酒を飲み料理を食べながら懐かしげに、そして楽しげに歓談している様子があちこちで見られました。思い起こせば20年ほど前になるか(正確には覚えておりませんが)、C組の山田喜雄君が中心となって、唯一度だけ44年卒業生の全体同期会を場所も同じフロア西船でやったことがあります。23年春の同窓会はそれ以来となります。それ以来の人も、卒業以来という人もこの人生の節目の年に集い、そして懐かしく語らしましょう。出席をお待ちしております。

# 千葉県立船橋高等学校創立90周年記念事業にご協力を

## 同窓会記念行事に向けて募金をお願いします

母校は創立90周年を迎えました。既に、創立90周年記念事業実行委員会が組織され、平成23年5月12日に記念式典を行うなど記念事業を行ってまいります。

そこで、同窓会だより第23号・平成22年版は、昨年同様、現在、住所

が判明している全ての卒業生と教職員の方々に送付し、記念事業へのご協力をお願いしております。式典とサトウハチロー自筆原稿を基にした校歌歌碑の建立等の記念事業を行うため、1千万円を目標にご寄付を賜りますようお願いいたします。

また、事業協力は、同窓会だより発行の原資とさせていただきますので、ご趣旨をご理解いただきますようお願い申し上げます。なお、引続き学年幹事の方等からご連絡をお待ちいたしますので合わせてご協力をお願い申し上げます。

### お願い

#### 募金

振込書は2部同封しました。毎回お願いしている同窓会だより等活動への協力金用一〇千円のものと同窓会の募金用一〇五千円のものとなります。お間違えなきようお願いいたします。

なお、今回、平成22年10月末時点で確認できました寄付者の方々をご芳名録として、同窓会だよりに同封させていただきますましたが、11月以降にご寄付いただいた方々のご芳名については次号にて掲載させていただきますので、ご承知おきください。

#### 学年理事

同窓会は、学年代表の方に理事をお願いしておりますが、現時点で昭和56年3月卒以降の学年の方々からの選出がございません。

このため、昭和56年から平成2年3月卒業学年の方は、理事を選出頂き、住所、氏名、電話番号等を事務局へお届けください。学年単位で活動がないことも予想できますので、卒業時に役員となっている方、記憶を手繰って、事

務局へご連絡ください。

なお、理事の方には、6月と1月の理事会、8月第1日曜日の総会、2月11日の春の同窓会に出席をお願いいたします。

#### 部活動OB会

同窓会組織は学年理事を中心に運営されていますが、部活動のOB・OG会の活動が盛んとなっておりますことから、今後は、部活動OB・OG会の方々にも同窓会運営にご助力いただくようお願いしてまいりたいと考えております。会の概要・幹事の方の連絡先等をお知らせください。また、会の活動報告等ございましたら、同窓会だよりに掲載させていただきます。

#### 定時制の方々

同窓会では、定時制の方々で、組織されているOB・OG会や学年会の代表の方にも同窓会運営にご助力いただくようお願いしてまいりたいと考えております。是非とも、幹事の方等の連絡先等をお知らせください。

#### お問い合わせ等

同窓会への連絡は、郵送か、Eメール

のみといたします。同窓会の住所は学校となっておりますが、同窓会事務局は常駐していませんので、電話でのお問い合わせにはお答えできません。また、同封のハガキは用途が異なりますので別便でご連絡ください。ご不便をおかけしますが、ご理解、ご協力をお願いいたします。

〒273-0002

千葉県船橋市東船橋6-1-1

Eメール funafuna55@nifty.com

担当 島崎喜一

(同窓会事務局、昭和48年卒)



# 恩師

## 探訪



### 合唱部の思い出

野尻 俊康 先生

私が県立船橋高校に転任して来ましたのは、昭和43年、23年間の在任でした。前任者の金田春雄先生は、合唱部の指導は大変熱心な方で、合唱コンクールで何回も千葉県代表になつてゐる部活動を私が引き継ぐのには大きな責任を感じていました。

その頃の合唱部の年間のスケジュールは、新学期が始まるとすぐ6月の千葉県合唱祭、(千葉県下の高校・大学・社会人の多くの合唱団が歌うステージ)次は6月の校内の文化祭での体育館と音楽室でのピアノ独奏・独唱・重唱を含んだステージ。文化祭が終り、1学期の期末テストが終る頃になると、合唱コンクールの課題曲と自由曲が決まり、夏休みになりますと、お盆の時期を除く休みなしの練習が始まりました。午前中とはいえ、暑い時期だったので、辛かつたと思います。

8月に入りますと3泊4日の合宿を行いました。私の在任期間の前半は1年毎に違う場所で行いました。夏で涼しい高原ですが、地名を連ねれば、関東地方・長野の殆どどの観光地が並ぶのではないかと思います。後半からは長野県軽井沢の或る音楽大学の夏期練習施設を借りることができ、毎夏そこで行いました。途中からオーケストラ部も加わり、ずいぶん賑やかになりました。

NHKの合唱コンクールは、県の代表になれば、以後の関東大会と全国大会は録音での審査が行われ、FMラジオで放送されました。それは別に、関東各県の代表校は渋谷のNHKの放送局に集められ、各校がコンクールの自由曲を1曲ずつ演奏し、テレビに放送されました。朝から夕方まで時間がかかり大変でした。しかし一度放送局の建物に入つてしまつと、中では自由で、放送中のスタジオを見学したり、昼休みには食堂が使える、朝のドラマの俳優さん、夕方の報道番組のキャスターさんが隣で食事していたとか、皆はしゃいでいました。

コンクール以外にも、夏の高校野球の開会式で大会歌の斉唱、国民体育大会(前回の黒潮国体)では開会式に他の学校と合同で参加しました。室内での何回かの合唱練習。当日と同じスタンドでの練習。本番数日前の秒刻みの練習等いくつかの思い出です。

毎年夏休み中に、全国高校総合文化祭が行なわれますが、2回出場しましたが、1回目は船橋東高校と合同でしたが、開催地は1回目は神戸、2回目は大阪でした。コンクールと違い、順位がつかないので、気持ちにゆとりがあり、特に演奏後の神戸の異人館の観光など、楽しい思い出になりました。

出になりました。この時の演奏は、難曲のバッハ作曲「カンタータ第147番」より第一曲と有名な「主よ人の望みよ喜びよ」でしたが、関西の有名な合唱指導者の中村仁策氏が、こんな難しい曲を高校生が演奏するのは信じられない。聞こえてくる音と、ステージの上の制服の高校生の姿が一致しない、不思議な体験だと演奏後の講評で述べられていたのは、部員全員の誇りだつたと思つています。

一昨年、合唱部30回記念定期演奏会で、吉田先生からのお話で、現役部員OB・OG合同の演奏を指揮させていただく機会がありました。ひさしぶりにOB・OGの方々ともお会いでき、時の流れをつくづく感じずには居られませんでした。

島尾はこうした戦争体験を夢、メルヘン、回想記などさまざまなかたちで作品化し、特に震洋特攻隊指揮官の体験を『魚雷艇学生』、『出発は遂に訪れず』、『出孤島記』、『その夏は今』、『復讐』、『国破れて』などの作品群を遺した。なかでも魚雷艇学生としての激しい訓練と生活や特攻隊志願の決められた、特攻隊員決定後の心境をえがいた作品が『魚雷艇学生』であった。



### 船高の歴史(一六)

#### 勤労動員で製作した特攻艇

小川信雄 (千葉県立船橋高等学校同窓会非常勤講師、一九六三年卒)

旧制船橋中学校は勤労動員で特攻艇「震洋」と深い因縁をもった。作家島尾敏雄(一九一七〜八〇)は、戦後文学者として『夢の中の日常』をはじめとする夢をもとにした作品によって、日本で最初の超現実主義小説家として現代文学の最先端に位置した。『島の果て』から始まるミホさんとの恋愛、結婚、夫婦、葛藤とさらに深い結合と、『死の棘』などによって男女、夫婦の本質をその源の極限状況として描き、純文学の極北的存在であった(奥野健男『島尾敏雄』魚雷艇学生、新潮文庫、解説から)。

横浜市に生まれ、ロマンティストで文学青年であった島尾は九州帝国大学法文学部を繰上げ卒業し、一九四三(昭和一八)年の海軍予備学生となり、翌年二月に第一期魚雷艇学生となり五月に海軍少尉に任官した。一月、第一八震洋隊(隊員一八三名)の指揮官となつて奄美群島加計呂麻島呑之浦に基地を置き特攻出撃を待つなかで二月に中尉に昇進した。四五(昭和二〇)年八月二三日に出撃命令を受けるものの発進命令のないまま、敗戦となった。九月五日に海軍大尉となり、翌日に召集解除となった。

建造(注 この舟艇とは実は「震洋」であった)の仕事で、この舟で敵前上陸がおこなわれるということであった(注 守勢にある戦局からすでに上陸用舟艇は必要のない兵器であったことはいまでもないから、これは正しい情報は秘匿されていたと頭われる)。私の仕事は、第二工場で、チャン、チャンという、ドリルで穴をあけ、釘をさし、ナットをはめて、釘の先をつぶし、ゴムと合板を密着させる(注 漏水をふせぐためである)うかみものであった。毎日、舟の下にもぐつて、釘の頭を、金属棒で押えたり、舟の中に入つて釘の先を叩いてつぶすことであつた(『同前書』九頁)とその思い出を述べている。

一九四八年の同窓会報の「船高の歴史」一四に勤労動員のことを述べておいたが、千葉工作所への勤労動員で旧制船橋中学校生が製作した「震洋」の数や種類は不明であるが、この特攻艇は完成後にどこに配備されたかは比較的、容易に推測出来る。それは千葉県では太平洋岸の各地に配備されたと考えられる。



# 船高の思い出

財務大臣  
野田佳彦氏  
(昭和51年卒)



昭和32年船橋市生まれ  
昭和51年3月千葉県立船橋高校卒業  
民主党 衆議院議員 当選5回  
財務大臣

昭和48年春、名門(船橋市立)宮中高等学校を卒業した私は、夢と希望をいっぱい胸にして県立船橋高校に入学しました。今では希望よりも脂肪がいっぱいになってしまいました。

入学直後、文化系サークルや運動部が新入部員の獲得をめざしてオリエンテーションを開催しました。その時の柔道部の展示は、小柄な部員が大柄な部員を「空投げ」という妙技(空で投げ飛ばす)というものでした。私はこの迫真のインテリキ芸に見事に欺されてしまい、柔道部への入部を決意しました。

中学生時代、「柔道一直線」というTV番組を楽しみに見ていた影響があったかもしれせん。主人公の二段投げという必殺技に憧れていました。それ以上にヒロイン役の吉沢京子というポチャポチャした女優に憧れていました。

入部してまもなく、「空投げ」で見事に宙を飛んだ大柄な部員は、鶴田重男先輩であることがわかりました。鶴田先輩には、連日、日が回るほど投げ飛ばされ続けました。寝技の稽古でも、巨漢の鶴田さんの下敷きになるとビクリとも動けませんでした。「柔よく剛を制す」といふけれど、実はとても困難であることを体感しました。政治家になった今も、なぜか寝技は得意

ではありません。当時の柔道部顧問は渡辺安道先生でした。誰か言い始めたかわかりませんが、「御所」と呼ばれていました。御所はお正月になると部員全員を自宅に招き、奥様の手料理をご馳走して下さりました。今に思えば、食べ盛りの少年たちでもなすのは大変な負担だったのではないのでしょうか。坊主めくりなどのゲームにも一緒に興じて下さりました。御所はもはや天上の人になってしまいました。私が財務大臣になろうとは想像もできなかったことでしょう。

寒稽古も辛かったけれど、道場に泊まり込んでの夏合宿はもうつきつかったです。特に、社会人や大学生になったOBの皆さんによる容赦ない後輩指導の時は、逃げ出したい気持ちに駆られました。とりわけ怖い存在だったのは、現在千葉県立千葉南高等学校校長の向井廣志先輩でした。とにかく滅茶苦茶厳しい先輩でした。向井先輩が道場に入ったと、一気にピンと緊張感が張りつめました。

昭和62年、私は千葉県最年少の29歳で県議会議員選挙に初当選しました。そして、当時県教育庁体育課に勤務されていた向井先輩をお訪ねし、当選のご報告をさせていただきました。新米とはいえ県議会議員が、県の職員の前で直立不動の姿勢で挨拶している光景は、周囲から見れば相当に異様だったそうです。

夏合宿のもう一つの辛さは、渴きです。現代スポーツにおいては、適時水分を補給するのが常識です。しかし、昔はなるべく水分を取らないように努めていました。だから、慢性的にノドが渇いていました。ある晩、御所とOBの先輩たちが旨そうにビールを飲んでるところを垣間見していました。渇き切った少年たちはその晩床に就いても、泡立った黄金の液体が頭から離れず、なかなか眠ることができませんでした。

確か、高2の夏だったと記憶しています。通帯は合宿が終わるとセンター競馬場(当時東船橋駅はありませんでした)近くで、コカ・

コーラのホームサイズをラッパ飲みして帰っていたはずですが、ところが、この日はある企てを遂行しました。

同期の部員7名は、八千代市高津の有馬健君のご家族が経営する幼稚園に集結しました。そして、園児が座る小さな椅子に腰掛け、途中で買い込んだつまみを中心に車座になり、念願の黄金色の液体をガブガブ飲み干しました。17歳の少年たちの大宴会のキックオフでした。夜通し飲み続けました。恐らく何十本もビンが空になったはずですが、そして、談論風発。人生、文学、時事問題。明け方まで熱く語り合いました。今に思えば、有馬家は相当に自由でおおらかな家庭だったといえるでしょう。その有馬君は現在、日本有数の名匠として活躍しています。

高2の頃の成績は散々でした。特に悲惨だったのは、物理何とテストの結果は8点でした。勿論百点満点のテストです。しかし、下には下がいるもの。同じ柔道部の大石君は5点、佐瀬君は3点でした。柔道部赤点トリオは揃って追試を受けるハメになりました。物理を大の苦手としていた私が、その後、宇宙基本法を起草するようになるには、誰を想できなかったでしょう。

理数系科目は全く才能がないと悟った私は、私立文系コースをまっしぐらに歩みます。そして、田中角栄研究で金権政治を徹しく告発した立花隆のように、ペンを通じて政治を正したいという寸志を胸に、早大政経学部に入學します。大学卒業年次に、松下政経塾第一期生募集」という新聞広告が偶然目に入り、「ふと」応募してしまっ

たことが、無口でシャイな若者が政治家を志す転機となりました。



艇が震洋であった。モーターボートである艦洋は同年五月には試作されていたが、代表的な五型艇は全長六・五m、全幅一・八六mで木製それもベニヤ板の貼り合わせ、その重量は二・四トンで最高速度三ノット(約五九キロ)、エンジン(シブシブ)を流用、爆薬一五〇kgを艇首に置き、ロケット式散弾一三mm機銃一基を装備して乗員は一名(注一人乗りの一型もあった)であった。この震洋は敗戦まで六、二〇〇艇が製造され、四五年二月二十五日にフィリピンのコレヒドール島で初めて出撃した。この特攻艦震洋による戦死者は推定で一三二二名を数えるという。

船橋市本町にあった千葉工作所は一九四〇(昭和一五)年に木造船製作工場として操業を開始した。当初は上陸用舟艇や軍用の折疊式舟、中折舟、舟橋などを製造していた。旧職員高山宏氏によれば「戦争末期には、爆薬を載せたたり用」の舟艇の製作が主であったが、実際に使用し始めた頃に終戦となり、生徒諸君が汗水流して製作したものが、進駐軍の手で、しかも戦車で乗りつぶされたという話を聞いた時の気持は「戦争突入前後から、食糧増産、飛行場建設等々の勤勞奉仕に出動することが多かったが、その真面目な働きぶりについては好評で感謝されるのが常であった。私の担任クラス(注一九四四年、つまり昭和一六年)の入学(注一九四四年)は千葉工作所の上陸用舟艇生産に協力するための出動が多かったし、戦争、酷いことからは、専属という形で生産に馬力をかけた。この頃になると、生徒の技術も一般工員並となり、自分達だけで立派に製作出来るようになった」とも回想している(『創立五十周年記念誌 千葉県立船橋高等学校』八五頁)。

この作業にあたった一九四五(昭和二〇)年卒業の丹羽雄氏は「学校生活で一番印象に残る思い出は、総てといつていくらゝ戦争と結びついている。四年の(一九四四年)七月からの千葉工作所船橋工場の勤勞動員は、思ひ出のなかでも、大きな領域をしめるものだった。木の合板(注ベニヤ板)とゴムベルトを利用した、上陸用舟艇

した戦艦部隊への空からの支援戦闘や武器弾薬・食糧などの補給をおこない、千葉県域を兵站地域とする計画であったことが分かった。

もともと日本軍部は千葉県を首都東京防衛の前線地帯として設定しており、県内各地には軍事施設が多数、置かれた「軍郷」であった。船橋市域と周辺だけでも田町の海軍無線電信所、飛行場は白井、松戸、柏など、習志野には鉄道連隊、騎兵隊、陸軍病院などがあつた。

太平洋を望む房総海岸、九十九里浜はアメリカ軍の上陸が想定されていたために、戦争末期には防衛施設が急造され、装備がまったく不足していた兵員も多数、配備された。「人間魚雷」で有名な水中特攻艇「回天」の基地は四五年七月、大原町に置かれた。「震洋」の基地の多くはアメリカ軍の上陸を待ち伏せ攻撃する目的で海岸近くまで山が迫っている地形の南岸に置かれた。尾名、砂子、鶴原、守倉、興津(以上は勝浦地域)、小湊(鴨川地域)から西海岸の洲崎・波佐間(館山地域)など十カ所近くを配備していた。なかでも小湊の基地は大規模なトンネルが掘られ、洲崎では現在も格納庫痕跡などが残っている。

旧制船橋中学校生の製造した「震洋」も、この南岸沿岸に配備されたことと思われるが、幸いなことに敗戦によって、九十九里浜など房総海岸へのアメリカ軍の上陸作戦はおこなわれなかった。勤勞動員ということから、船橋高校の歴史も「特攻」と深い関わりを持つていことがわかったのである。

### 参考文献

- 島尾敏雄『魚雷艇子生 新潮文庫、一九八九年七月』
- 『創立五十周年記念誌』一九七〇年七月
- 千葉県『千葉県史編纂委員会資料 千葉県近代史料報告書』(『戦時勤務報告に関する件』)上中下、一九九三年三月
- 千葉県『千葉県史 通史編二 近現代』二〇〇六年三月
- 『特攻 最後の証言』製作委員会編『特攻 最後の証言』アスペクト、二〇〇六年二月
- 木俣滋郎『幻の秘密兵器』光人社N.F.文庫、一九八八年八月

平成21年度 事業報告書

同窓会総会は、例年、8月の第1日曜日の開催となっております。今年度は8月1日に船橋高等学校の会議室で行われました。平成21年度事業・決算報告、平成22年度事業計画・予算案及び船高創立90周年記念事業計画案を議題とし、原案通りご承認を得ました。

一般会計は、入会生徒数・会費収入がほぼ昨年度と同数で、例年通りの収入・支出となりましたが、母校在校生の活躍が目立ち、昨年同様、予算を上回る団体支出金(関東大会等出場者補助)を支出しました。在校生の活躍ぶりは「母校の現況」で詳しく紹介していますので、ご覧ください。

春の同窓会は、この10年ですっかり定着し、特別会計・春の同窓会基金から、約31万円を事業関係特別会計へ繰入れることができました。また、事業関係特別会計は同窓会だより発行を目的に運用されていますが、昨年は90周年事業寄付金を集めたこともあり、事業協力金が予定を大きく下回ってしまいました。

また、90周年関連の収入として、同窓会名簿販売代金と記念事業寄付金を報告させていただきましたが、目標額に達していません。本年の同窓会だよりも、全会員に発送していますので、事業協力金、寄付金ともにご協力いただきますよう、一層のご理解とご協力をお願いする次第です。

平成21年度一般会計収支決算報告書

Table with 5 columns: 科目, 21年度予算, 21年度決算, 20年度決算, 備考. Rows include 繰越金, 会費収入, 雑収入, 合計.

Table with 5 columns: 科目, 21年度予算, 21年度決算, 20年度決算, 備考. Rows include 会議費, 必要費, 後援費, 交際費, 事務局費, 予備費, 次期繰越金, 合計.

Table with 2 columns: 科目, 平成16年3月購入. Rows include 自動車1台, トヨタハイエースバン, 保険.

平成21年度特別会計収支決算報告書

Table with 5 columns: 科目, 21年度予算, 21年度決算, 20年度決算, 備考. Rows include 前期繰越金, 会費等収入, 利息, 合計.

Table with 5 columns: 科目, 21年度予算, 21年度決算, 20年度決算, 備考. Rows include 宴会費, 同窓会だより発行, 通信費, 幹事学年打合せ費, 運営費, 記念品, 理事会会議費, 特別会計2へ繰出, 次期繰越金, 合計.

Table with 5 columns: 科目, 21年度予算, 21年度決算, 20年度決算, 備考. Rows include 前期繰越金, 事業協力金, 特別会計1より繰入, 雑収入, 利息, 合計.

Table with 5 columns: 科目, 21年度予算, 21年度決算, 20年度決算, 備考. Rows include 同窓会だより発行, 振込み手数料, 通信費, 名簿管理費, 理事会会議費, 特別奨励金・管理費, ゲームページ関連, 雑費, 学校寄付金, 予備費, 次期繰越金, 合計.

Table with 2 columns: 科目, 金額. Rows include 90周年記念事業関連報告, 同窓会名簿販売代金, 90周年記念事業寄付金.

母校の現況

●全日制の部活動

- 運動系部活動の番号の区分
①21年度新人大大会(県大会)
②22年度関東大会予選
③22年度県高校総体(県大会)
④その他

■運動系部活動

- 野球
③選手権大会 県大会 4回戦
陸上競技
①男子棒高跳び 5位 下条健吉
②女子棒高跳び 6位 松田光平
③男子4x400mリレー 4位 坂田知加
④男子4x400mリレー 5位 坂田知加
(関東選抜新人大大会出場)
(関東大会出場)

- 水泳
②水球県選手権大会出場
③水球県大会 3位

- 男子棒高跳び 8位 下条健吉
女子棒高跳び 8位 松田光平

競泳男子背泳ぎ 入賞

- ①県大会 2回戦(ベスト32)
②県大会 2回戦(ベスト16)
③県大会 3回戦(ベスト32)
④高校選手権千葉県大会 ベスト29

サッカー

- ①県大会 2回戦(ベスト32)
②県大会 2回戦(ベスト16)
③県大会 3回戦(ベスト32)
④高校選手権千葉県大会 ベスト29

- 柔道
①男子73kg級 3位 末永大修
②男子73kg級 3位 末永大修

- 剣道
①男子団体 県大会ベスト32
②男子73kg級 3位 末永大修

- バスケットボール男子
①県大会 2回戦
②県大会 2回戦
③地区予選決定戦にて敗退

バレーボール女子

- ①県大会 1回戦
②県大会 1回戦
③県大会 1回戦

テニス

- ①女子団体 県大会ベスト32
②女子S ベスト32 服原
③女子D ベスト16 青木・服原組

- ソフトテニス
①女子個人戦3回戦 齋藤・塚
②男子団体 県大会2回戦
③男子個人戦3回戦 齋藤・塚

- 女子個人戦3回戦 齋藤・塚
女子個人戦3回戦 齋藤・塚

- 女子団体 5位
地区研修大会
男子優勝 目崎・出口
女子優勝 齋藤・塚

卓球

- ①個人S2名県大会出場
②男子団体 県大会2回戦
③男子個人 県大会2回戦
④男子個人 県大会2回戦

バドミントン

- ①男子団体・女子団体 県大会出場
②男子S1名・女子S3名出場
③男子D2組出場
④男子団体 県大会出場
⑤女子団体 県大会2回戦

- 女子D1組・S2名県大会出場
女子D1組・S2名県大会出場

- アーチェリー
①女子個人 4位 藤井沙奈香
②男子個人 9位 藤井沙奈香
③女子個人 9位 藤井沙奈香
④関東選抜大会女子個人

- ワンダーフォーゲル
春の新人歓迎合宿 丹沢
夏合宿 南アルプス

ダンス同好会

「たちばな祭」にて発表

文化系部活動

合唱

千葉県アンサンブルコンテスト 金賞  
(全国大会出場 優良賞)

全国高等学校総合文化祭(宮崎大会) 出場

NHK全国学校音楽コンクール  
千葉県大会 金賞・最優秀賞

(関東甲信越大会出場 奨励賞)

千葉県合唱コンクール  
金賞・県教育長賞

第31回定期演奏会  
オーケストラ

第34回定期演奏会

全国高等学校選抜オーケストラフェスタ  
全国学校合奏コンクール千葉県大会 銀賞

県連合船橋地区音楽会

東船橋駅クリスマスコンサート

県管楽器ソロコンテスト ホルン部門  
3位 大野星絵

将棋  
県高文連将棋大会個人戦  
5位 平尾一土

県総合文化祭将棋大会個人戦  
3位 平尾一土  
5位 杉村英昭

美術

千葉県高校総合文化祭美術工芸作品展  
作品出品

「たちばな祭」(WOWS101)開催  
作品出品

千葉県高校総合文化祭美術工芸作品展  
作品出品

「たちばな祭」  
作品出品

書道  
第59回千葉県小中高書道大会  
書道部会長賞 遠藤晃太

千葉日報社賞 対馬恵美

武藤なな

全国高等学校総合文化祭(宮崎大会)  
作品出品 遠藤晃太

生物

生物チャレンジ2010

二次予選9位(金メダル) 大塚佑太

18位(銀メダル) 相馬未重

地学  
冬季合宿(内海山県民の森)  
化石採集(真黒合)

夏季合宿(長野県東御市)  
鉄道研究

「たちばな祭」にて  
鉄道模型の実演販売

機関誌「M.Aboard」の発行(年4回)  
クイズ研究会

第30回全国高等学校クイズ選手権  
全国大会2組出場 うち1組4位

ジャズバンド  
文化祭・合唱祭参加

茶道  
県高文連総合交流茶会参加

県高文連地区交流茶会参加

「たちばな祭」にて茶会

演劇  
県高校演劇中央発表会 優秀賞

春季地区発表会 最優秀賞

放送委員会  
高文連放送コンテスト  
朗読部門 優良賞

高文連放送コンテスト  
朗読部門 優良賞

ビデオメッセージ部門 奨励賞

オーディオビジュアル部門 優秀賞

NHK杯全国放送コンテスト  
(千葉県大会) 最優秀賞

朗読部門4名参加 優秀賞

ラジオドラマ部門 3位

ラジオドラマ部門参加

全国高等学校総合文化祭(宮崎大会)  
オーディオビジュアル部門参加

●定時制の部活動●

千葉県高等学校定通体育大会  
陸上競技

男子100m 2位 伊藤雄太

男子走幅跳 2位 伊藤雄太

バスケットボール男子 準優勝

卓球女子個人 3位 千葉瞳

剣道女子個人 3位 諸岡ゆかり

ソフトテニス  
男子個人 2位 重田・鈴木組

バドミントン  
男子個人 優勝 木本冬威

男子ダブルス3位 山本・星組

千葉県高等学校総合文化祭  
第43回合同写真展

個人賞 入選 朽方英樹・日崎宏伸

北口マイラール

陸上競技  
男子100m・走幅跳出場 伊藤雄太

卓球女子個人 2回戦 千葉瞳

剣道女子個人出場 諸岡ゆかり

ソフトテニス男子出場 重田・鈴木組

バドミントン男子  
個人ベスト32 木本冬威

同 出場 山本幹一

高校生クイズ参戦記

3年 皆川 結菜

私、藤田君、三澤君の3人は第30回高校生クイズにインターネット特別大会文系一位枠で出場しました。(放送を見てしまった方向けに断っておきますが、やたらとSSHが強調されていました。私達は全員文系です。)

一週間に渡って日テレのスタジオや都内の某ホテルに軟禁され、受験生であるにも関わらずクイズ漬けの日々を過ごさせて頂きました。朝は取材、昼はクイズ、夜は大騒ぎ、と大変濃い一週間を送れたことは、とても良い経験になりました。

この大会中にできた友達みんな個人的で面白く、そして頭の良い人たちばかりでした。今私は受験の真っ最中ですが、こうした友人と連絡をとりあい、お互いに励まし合って頑張っています。こんなに多くの同じ大学を目指すという友人と切磋琢磨し合えるのも、この大会のおかげだと思っています。

最後に、クイズとは決して天才たちがするものではありません。私には弟がいますが、バドミントン



「努力した人が成功する」とは限らないが、成功した人は少なからず努力している。これは私の好きな、そして友人お薦めの言葉です。

後半は参戦記ではない方向へ話がそれてしまいましたが、この大会中はずっと多くの貴重な体験が出来、なかっただけの教訓を得ることが出来ました。拙い参戦記でしたが、最後までお読み頂きありがとうございます。

千葉国体に出場して

坂上 晃

僕は九月十四、十七日に行われた、ゆめ半島千葉国体、水泳競技の水球に千葉県代表として出場しました。

国体に向けての練習は、開催県という事もあり例年以上に気合が入っていて、特に夏休みは辛く厳しい日々が続きました。県外遠征も何度も行い、新潟や京都など遠い所へも泊まりがけで行きました。

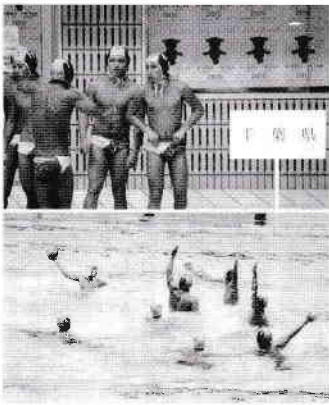
そうして迎えた国体本番、僕は初めての国体だったのでまずそのスケールの大きさに驚きました。駅前に並ぶグッズ販売店や国体仕様になつていくブル、観客の数など何もかもが県や関東大会のそれと規模が違いました。そして自

分はの中で試合をするんだと思うと、どんどん緊張も高まってきました。

初戦の相手は京都府でした。昔から変わらない水球をしてくるこのチーム相手に前半は同点と善戦しつつも、後半離され14対10で敗れてしまいました。

負けた事もすごく悔しかったですが、それ以上に今まで練習してきた事を出しきれなかったのが悔しかったです。結局優勝したのは東京都、僕達が戦った京都は四位という結果で水球競技は幕を閉じました。

千葉国体に出場して、この国体に関わる全ての出来



事が二度とできない貴重な経験で、負けてしまった事はとても悔しいけれど、それも含めて一つの思い出になりました。開催県の代表として出場できた事を嬉しく、また誇りに思います。

おたより彼れ是れ

●最倉 未知子 (旧姓島田) 昭和49年卒

子どもたち3人も大学以上となり、高校無償化の恩恵を存分に受けています。3人目が大学では教員に入ったので、「わが同窓」の藤さんの原稿は「もも」に代わりと読ませていただきました。年末、船橋市内のあまの湯に立ち寄りまして、店主の方が本校卒業生と話が弾み、話が及ぶと、他に卒の居ないのを幸い二人で合席してしまいました。同伴の喜ぶ顔が嬉しかったです。

●一谷 恵子 (昭和49年卒)

昨年は、3月に高橋部の30周年記念講演会、O.G.OG(合同)合唱への参加、そして5月には2年生の時の修学旅行で班行動を共にした仲間との35年ぶりの再会、大変充実した1年間でした。同窓生と今だにこのまま交流を続けている幸福を感じております。

●長谷川 賢 (平成22年卒)

千葉を離れ、北海道で仕事を13年になります。先月、帯広で船橋高の先輩に偶然出会い、びっくりしました。ペットショップ経営者です。遠い北の大地で「フナコ」の大活躍と出くわすまで。

●若菜 一 (昭和26年卒)

何10年か振りに、このだちを受けて、このような会報が発行されていることを知りまして、私が卒業したころは男子校で、投稿者の65%が女性であることに驚いていました。私共の同期生も毎年10月の第3日曜日に数が少なくなりましたが、同期会を船橋市内で行っています。

●佐藤 豊 (旧職員)

定年退職後9年になりますが、まだ教育関連の仕事もさせてもらっています。パレーホールとはすっかり縁が切れてしまっています。真船在職は8年でしたが、卒業学年の担任は1回きり、新卒を育てようとしていたのに、不足だったのか少し残念に思っています。先輩や若い同窓生の活躍を誇らしく思います。同窓会の益々の発展を心から祈ります。

●西野 幸代 (旧姓金崎) 昭和58年卒

我が子が大学入試を控え、やきもきし放ちの毎日です。でも、ちょっと待って。自分も受験生時代、奔放に過ごしていたはず。その時の親の気持ちは、いつかして、世代は受け継がれていくので、これから先毎日の笑顔を大切にしていきたいと思っています。

●内藤 泰介 (平成22年卒)

産業界OBです。卒業してから業道は全くやらなくなりましたが、運動不足解消を目的として、約2年前から週一回のペースで練習をしています。

●関口 知美 (平成6年卒)

同窓会だより「をい」も楽しみにしております。千葉のチマリーノの早川大輔選手は19年生の時のクラスメイトでした。当時から野球部の主将として頑張っていて、今も担当の先生との年賀状の話題にあがります。

ります。「キザタイム」も愛読しているのですが、表紙の絵を描かれていた飯田さんが船橋の卒業生と知り感謝致しました。

●新聞 重雄 (旧職員)

再雇用の年齢になり、市川高校でアルバイトで勤務しています。昨年は浦安南高校でした。今の仕事が終わってからのんびり時々考えます。

●小井土 清 (昭和25年卒)

第2回卒業生は殆ど昨年春を迎え、それを機にクラス会も終わり、今後有難くも集まることには、数多くの恩師と卒業生を失い、出陣者も約30名欠席者を含め90%からの病欠持の状態、学校も我々も変わつた。今後は、何時までで学友と語らえあえるか健康との勝負だ。若く健康を志す。

●大場 敬一 (昭和28年卒)

定時制の同窓会も軌道に乗ってまいりました。金子会長はじめ皆様のお蔭で深く感謝しております。これからも宜しくお願いいたします。これからの目標は、春の同窓会に、部の人しか参加していませんので、多くの人が参加するよう、努力して参りたいと思っています。

●子安 啓司 (昭和43年卒)

まだ子育中ですが、90周年にむけて大変さというけど、頑張っています。

●安原 廣 (昭和35年卒)

シムル健康体操教室に通っています。だから元気で、シムル健康体操教室に通っています。

●坂本 タミ子 (旧姓橋崎) 昭和44年卒

私達学友が90周年を迎えるにあたり、心強く子供や孫達まで学生時代の思い出を話している昨今です。後輩の皆さんもぜひ活字の活字、同窓会だよりを見ることが楽しみです。これからも益々の活躍と進歩を祈ります。

●石田 寛 (旧職員)

定年退職後から始めた木彫、詩吟、民謡の受講とその発表会に出向いたり、70代後半を謳歌しています。マスター大塚上興選手大会で70・75歳の部で10月15秒22の大会記録で20mを32秒45で各種優勝を機に引退し、現在はジョギングとウォーキング混合で約4kmを夕食後散歩、年間歩数は95%です。

●海老原 孝司 (昭和43年卒)

6月に電圧が、年賀状に届いて嬉しかったです。もう1つ年齢はまたたきと実感しました。

●中村 千恵子 (旧職員)

在職中、教員でパソコンに携わったお蔭で現在も同窓会keto.comボランティアで、多少お役に立てて有難いことです。10年間に70周年と慶賀致す。今年90周年。感謝です。昨年白希も迎えて、1年1年元気で外出が可能でありつつは、願っています。

●林 功雄 (昭和32年卒)

同窓会会長はじめ事務局の方々に大変御苦労様です。昨年夏開催の昭32年卒定年組ルーム(D組)のクラス会が行ったことが出来た。約16名集まりました。佐藤 智洋子 (旧姓西川) 昭和42年卒、60を期に、17才、20才まであった、お蔭を又始めました。そのお蔭で、パーティーで弾かせて下さい。

●辻丸 卓実 (昭和42年卒)

創道部のOBです。同期中に、番下だった私ですが3年間続けたのは仲間のおかげ、感謝しております。

●佐藤 千代子 (旧姓村田) 昭和32年卒

同窓会だより「第2号」を拝読いたしました。後輩の素晴らしい活躍を目にするのは嬉しかったです。私は現在の日本国のように、就職難の時代に、他県から市川市の会社に就職した。そしてその翌年に船橋定時制の学生になりました。卒業のときは20歳でした。船橋の卒業生であることを誇りに思っています。

●竹下 高代 (旧姓遠藤) 昭和61年卒

忙しい毎日の中、ご挨拶をなす。同窓会便りを拝見し、とても喜んでいます。物置の奥から出て来ます。すばらしい同窓会の方々に感謝いたします。

●福原 優子 (旧職員)

八十八歳になり、家で元気にしております。旧職員として同窓会の発展をお祈りしております。

●大久保 明夫 (昭和29年卒)

会報をお読みいただきありがとうございます。母校の活躍をうらやましています。物質豊かな中で心貧しい人々の多、明日はなるかな、国づくりに願わねばなりません。そのためにも高等教育の重要性を痛感します。船橋の教育、高校生の育成に期待しています。

●安富 伸子 (旧姓藤竹) 昭和34年卒

同窓会だよりありがとうございます。同窓生の金子さんが会長として下さって、昨年は生物学オリンピックで金メダルをとったお蔭で嬉しい限りです。

●江頭 孝子 (旧姓若佐) 昭和34年卒

旧職が現在薬園台高校園芸科となり、楽しそうに活動しています。私の所から近いので、チョロチョロ温室を楽しみにかかっています。農学部の前は、一高中の職業科に習習しました。車取りばかりでした。それをたずねる度に中学生にタイムスリップをします。まわりの校の木々に年を感じます。

●鈴木 仁 (昭和27年卒)

もう卒業以来58年を過ぎますが、あんなに楽しい組(定年組)では、今年「回く」を企画開催して頂きたいです。「高齢にかかれば、90才以上、毎週回遊実業先生(ご)出席を得て、時にはこれからの生き方などについて指導を受けて頂きたいです。

●細井 信子 (旧姓大西) 昭和27年卒

船高を卒業したのは、私の家では、私以下、弟2人と妹3人です。今も忘れぬ友人達の殆どが船高で共に学んだ人達です。青春時代の良き思い出は、船高と共にあります。

●井上 昇 (昭和40年卒)

大木忠郎先生の記事を楽しく読ませていただきました。昔手紙で英語の手紙先生を思い出しました。最近、英語の勉強を始めました。

●田所 真紀子 (旧姓神谷) 昭和58年卒

息子がもうすぐ船高を卒業します。PTAの役員として再び母校に通い、懐かしい校歌を聴き、変わらぬ校風を感じる事ができ、あの頃にタイムスリップしたような楽しい3年間でした。また、一昨年開いたOG会、再会した友達に、時々母校の様子をお知らせし、在校生の活躍の話題で盛り上がる事ができ、嬉しく思っています。

●佐藤 哲 (昭和39年卒)

同窓会だより「いつも」も楽しく読ませて、いただいてありがとうございます。私も今年65歳、世間では、高齢者と呼ぶそうです。でも私を含めて、65はまだまだ若いのです。今でも現役で頑張っています。母校も創立90周年の発展をお祈り致します。

●片桐 順子 (旧姓飯田) 昭和37年卒

66才になりました。船高卒業して50年近くになるなんて信じられません。つい、昨日のこのように思っています。一度、なつかしい船高に行ってみようと思いついて、100年近くも卒業生を入れ、送り続けた母校を誇りに思っています。

●中西 征一郎 (昭和32年卒)

当時担任であった青柳正臣先生がご健在とご教壇は毎年5月にOG会をしております。また、パレーホール部のOB、OG会を創設し、1月24日には元部顧問であった伊井正美先生出席のもと新年会が開かれます。

●高川 康子 (旧姓本間) 昭和40年卒

還暦を祝って生物部OB会同期「人」十先陣で、一泊旅行をしてから毎年引き続き今年で五回目になります。若く元気な源か。

●星 豊男 (昭和32年卒)

卒業して53年、時の流れの早さを痛感しています。サラリーマンを卒業した頃集まり「船橋市時活村」で多くの仲間と過ごしています。同窓の先輩や後輩もおられます。

●塩田 俊一 (昭和31年卒)

今秋一巡目の第65回国民体育大会が、ゆめ半島千葉団体の名のもと千葉県で開催されました。実行委員の人として県民体育協会の諸行事に出席してみます。恩師の野村、伊井先生と後輩のOBたちの元氣な姿に接するのを楽しみます。

●飯田 郁夫 (昭和29年卒)

「風神探訪」拝見して、大木忠郎先生の記事にびびりました。私も、白毛が好んで、月に1回ライブハウスに吹きに行き、カトリックの曲を吹きます。そして山が好きで登っていますが、先生の若さを感じたいです。

●土田 敏子 (旧姓茂田) 昭和49年卒

霧が立ち季節になると、奥の野球場(元運河を掘り出した所)から、また、白い大きなまんなの霧が発生しているかなど船高の情景を思い浮かべます。なつかしいなあ。

●牟田口 正明 (旧職員)

県船高退職後、東邦大学で講師として再就職し5年目です。今更にながら船高の良き、質の高さを懐かしく思い出しています。

●奥永 俊哉 (昭和58年卒)

創立90周年おめでとうです。卒業しては27年が経ちましたが、今でも東船橋から母校の方を臨むと懐かしさ込み上げてきます。

●斎藤 賀世子 (旧姓市村) 昭和35年卒

卒業後、もう50周年になつたが、今更にながら年月の早さに驚かれます。気持ちの上ではまだ若くても、身体は確実に老いています。いつになつても、気持ちだけは前向きに、時々自分自身を励まして今日の頃です。

高瀬ルーム喜寿クラス会

21年4月芥川龍之介ゆかりの一宮館で開催。9歳年上の恩師は隣にすみ市よりご自分で運転してご出席されます。23年には恩師米寿、24年我々の傘寿クラス会を目標のゴールに、毎年6・7回の集まりを続けておりますが、その後も恩師を見習い、元氣な内は続けようが合い言葉です。

昭和28年卒 伊藤 鷹一

編集後記

今年度、縁あって母校で教鞭をとることになりました。文化祭、芸術鑑賞会、合唱祭等々。たくさん行事を重ねる度に、先生から先輩になる時間を楽しみながら奮闘しています。自分の高校時代に比べると、数段真面目な生徒たち。「いまを生きて」と心援する日々です。

今回の同窓会だよりは、90周年記念行事の紙面が増えてページによつては活字が小さくなっています。目を休めつつ、お寄せいただいた、船橋高校への熱き思いをゆつくりとお楽しみください。

(昭和52年卒・Y)